

平成30年
7月発行



ほうかつだより

回覧

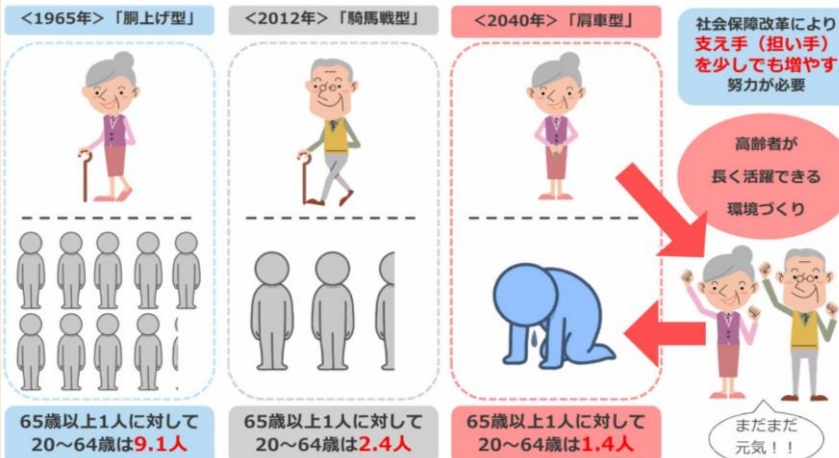


久留米市、7年後には約3人に1人は高齢者の時代へ突入！
 高齢者が住み慣れた地域で自立して在宅生活を続けられるよう、
 多様な主体による様々な生活支援を地域の中で確保し、
地域で支え合う仕組みづくりが必要になります。

なぜ、今、地域で支え合いが必要？

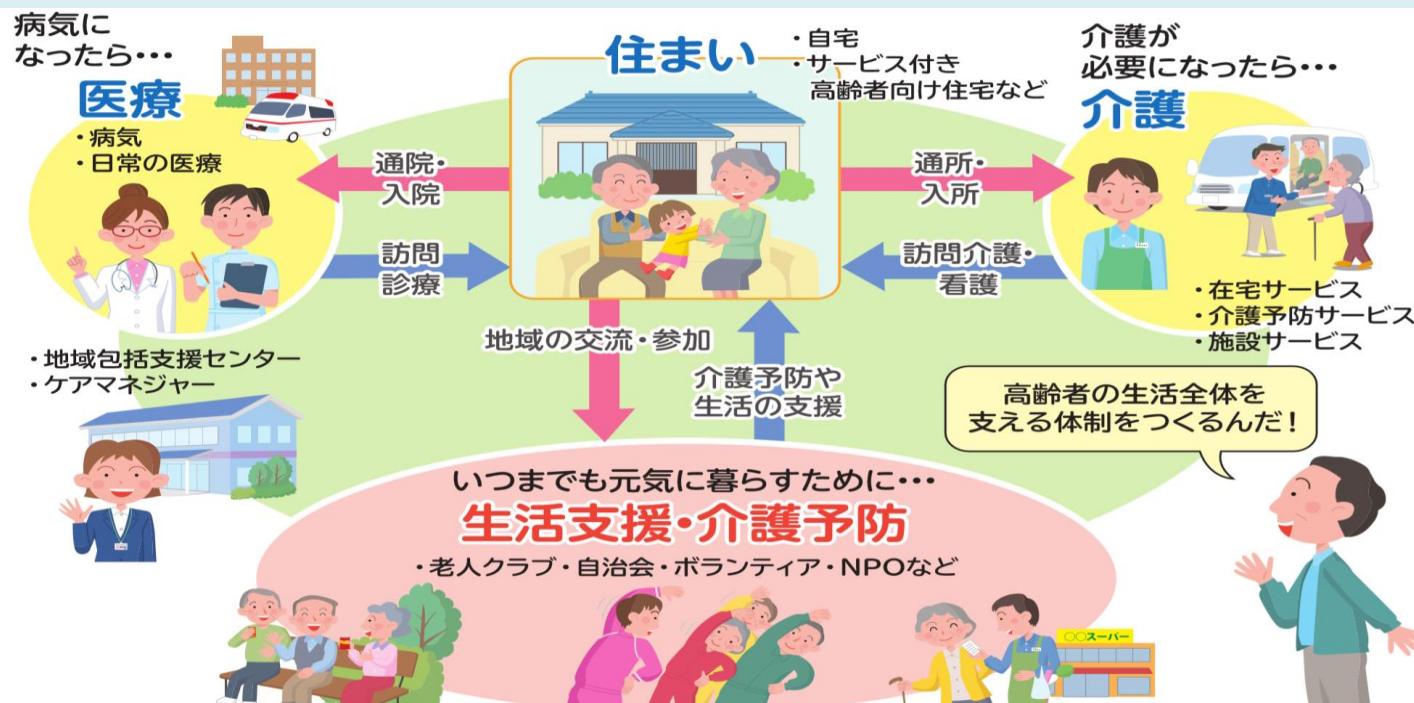
久留米市の「高齢者人口」は増加し続け、平成37年には85,655人となり、「高齢化率」も29.3%になると推計されています。全世帯中の「高齢者のいる世帯」の割合も平成7年の30.4%から、27年には40.6%に上昇しています。また、「認知症高齢者」は、平成24年の約1万人から、37年には約1万7千人になると推計されています。
 久留米市第7期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画より

急激な高齢化が進み、やがて「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れます。



出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング「新しい総合事業における以降戦略のポイント解説(概要版)」

少子高齢化に伴い、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加。それにより、要介護認定者や認知症高齢者の増加、介護の担い手不足も懸念されています。



“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、支援や介護が必要になっても、地域社会の中でなじみの関係を継続できる。

地域包括支援センターは、地域の皆様や関係機関との協働による高齢者支援や、専門的な地域課題を解決するためのネットワークづくりを目指します。
 次回、9月号では介護予防・日常生活支援総合事業についてお伝えします。